



子育てチャンネル

子どもからの魔法の言葉

もともと保育士をしていた私は、現在学校に併設の「ふれ愛の郷」での子育て支援活動の担当をしている。仕事柄、お母さん方からは「一日中たたくさんの子どもの相手をしてくいすね」と言われることがある。

「私なんて家で3人見るだけで大変…」 「私なんて1人だけが大変だわ」などということもよく聞く。しかし私は子どもたちと関わることに大変だと思ったことはない。

厳密には、保育業務において大変なことも多々あり、まったく大変でないというのは嘘になるが、純真な笑顔と「先生おはよう」「先生楽しかったね」「先生大好き」などの子どもの一言で大変な思いも吹き飛んでしまう。もちろん素直な分、ドキッとさせられる言葉、グサツとくる言葉もあるが、それは自分を見直す機会にもなる。

先日、『森のほいくえん』の開催中に初雪が降り、

子どもたちは大興奮で、見て・触れて・舐めてと五感で味わう体験が出来た。まだ、雪というよりは丸い球状の「あられ」だった。女の子が手に降り積もったあられを見つめ、「雪のたまごだ」と目を輝かせた。

ねえ、みなさん、きれいな表現だと思いませんか！

私たちは普段、子どもの何気ないつぶやきにそれほど関心を持たず聞き流している。さもなければ「違うでしょう。それはあられと言つたのよ」と、

ともすれば自分たちのルールに物事を当てはめ、それと違う表現を否定し、自分たち大人が正しいと思っっているものを教えることから入ってしまう。



その雪は、視点を變えてよく見れば小さな虫の卵のようにも見えた。その子は言葉を知らなかったのではなく、自分の感性をストレートに表現したのだ。それに気付いたらなんだか温かい気持ちになった。

子どもは豊かな感性の芽を潰さぬよう、

私たちが「すこいね、雪のたまごみたいだね」などと子ども

の感性を肯定することが入ることを忘れないでいきたい。

そして保育、幼児教育を目指す学生たちには、子どもに教えること以上に、子どもから学ぶことがたくさんあることに気付いてもらいたい。心の目を使って。

そこを感じられれば、この仕事の楽しさがさらにアップするはず。

私は、最初に登場した子育て中のお母さんたちの方がずっとすごいと思う。

集団の中の子どもは個性や自己主張がありながらも、集団のルールを意識し、仲間との関わりの中で頑張っていると思う。しかし家庭の中の子供は、親という存在の前で甘えやわがままが表れ、全力でぶつかってくる。忙しい時にそれに出くわすとイライラしてしまう。気持ちもよく分かる。でも他でもない親だからこそ、そんな居場所があるからこそ、そこを拠点として次に進めるのだ。私の娘はこの春小学生になるが、かなりの甘えん坊だ。この甘えもあと少しかも知れないと思うと、今を大事にしていきたい。

旭川福祉専門学校教員

島田直美